

Take
FREE!



新たなヒーロー誕生！
世界一、礼儀知らずな
エージェント！

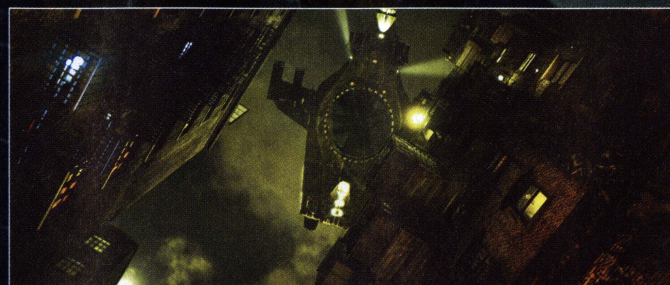
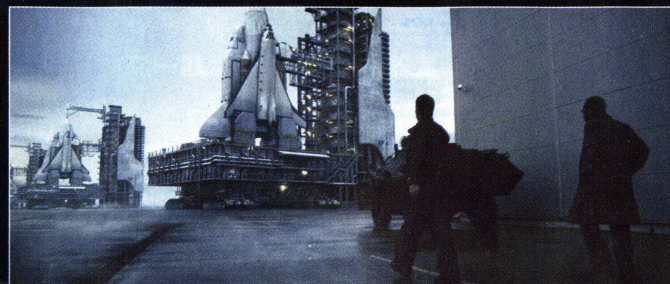
ロックアウト

新ヒーロー《スノー》解剖BOOK

11.23(金) 全国ロードショー！



あの『フィフス・エレメント』から15年
リュック・ベッソンが満を持して放つ近未来SFアクション！



プロデュース&脚本を手がけたリュック・ベッソンは、言わずと知れたフランスを代表するヒットメーカー。本格的なSFアクションを手がけるのは、『フィフス・エレメント』以来、実に15年ぶりのことだ。その『フィフス…』は壮大なスケールと世界観で観客の度肝を抜いたが、本作にもそんなエッセンスが確実に脈づいている。屋内での肉弾戦から宇宙空間を舞台にした戦闘まで、SFアクションの醍醐味を凝縮。まさに満を持した1作と言えるだろう。

リュック・ベッソンといえば
やっぱりアクションでしょ！

『レオン』を例に出すまでもなく、アクションはベッソンが得意とするジャンル。とりわけ、猪突猛進型の一匹狼を主人公にした作品では抜群のキレを発揮する。ココロもカラダも強靱なヒーローが、ここにいる！



「トランスポーター」
プロの運び屋が活躍する人気シリーズ。寡黙な主人公フランクのタフな活躍が光る！



96時間
主人公は元工員。旅先で何者かに誘拐された娘を救うための行動にブレなし！

演技派から一転、ガイ・ピアースが作り出した新たなヒーロー

次々と襲いかかる危機に、飄々としたジョークと、卓越した行動力で立ち向かうスノー。
『メメント』等で繊細な印象が強かったガイ・ピアースが、タフで口の減らないヒーロー像を作り出した！



スタッフも驚く肉体改造で
タフガイボディに大変身！

当初監督が会ったガイ・ピアースは(TVドラマ「ミルドレッド・ピアース 幸せの代償」を撮影中) 痩せていて、製作陣は不安があった。そこで彼はボディビルチャンピオンであった過去を明かし、撮影までに「ムキムキ」になることを約束！ ジム通いをし、プロテインを摂り、スタッフに逐一体作りの報告をしていたという。その肉体作りの努力は撮影最終日まで続き、毎週のように怪我をしつつも、最後までタフガイを演じきった。今回2~3ヶ月ほどの役作りで増やした体重はなんと約23キロ(50ポンド)!! 『プロメテウス』のおじいちゃん博士役の次は、マッチョなアクションヒーローと、カメレオン俳優への道をひた走る！

スノーについて

「スノーみたいな不遜なキャラクターを演じるのは楽しかったね。彼がありきたりなアクション・ヒーローじゃないところに惹かれたんだ。いつもやる気がなくダルそうにしているところにね」

どんな準備をしましたか？

「肉体的には、体重を増やすために、昔やっていたウェイトトレーニングをまた毎日やるようにした。一番大切なことは、キャラクターに説得力を持たせることだからね」

『ロックアウト』11月23日(金)全国ロードショー

製作：リュック・ベッソン 脚本：スティーブン・レザー&ジェイムズ・マザー リュック・ベッソン
監督：スティーブン・レザー&ジェイムズ・マザー 出演：ガイ・ピアース、マギー・グレイス、ヴィンセント・リーガン

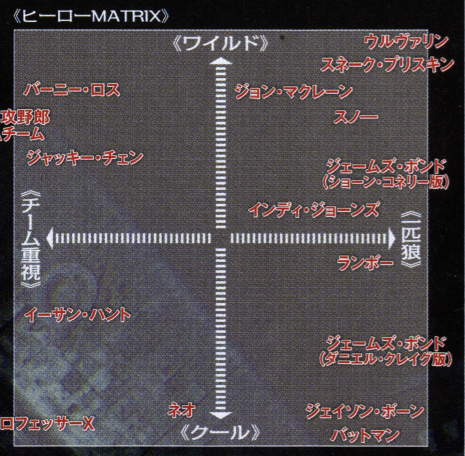
最新情報はコチラ

公式HP lockout.jp

@agent_lockout

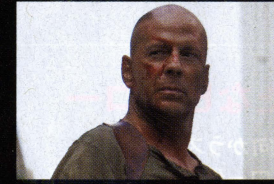
宇宙に浮かぶ監獄から大統領の娘を救出せよ! 選ばれたのは、世界で最も礼儀知らずな男だった…!

歴代アクションヒーローたちと
新ヒーロー、スノーを比較する



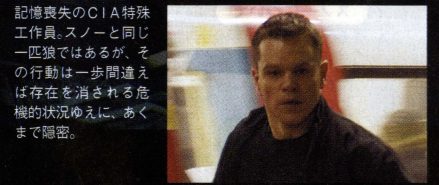
映画の中のCIAエージェントは様々だが、スノーほど傍若無人なキャラクターは珍しい。そもそもスパイという仕事では目立つのはご法度。クールな行動が要求されるのは、ジェイソン・ボーンやイーサン・ハントといった人気キャラの活躍ぶりからも明らかだ。「マトリックス」のネオも「ダークナイト」のバットマンも、この流れを汲む、シリアスで悩めるキャラクター。あの007でさえ、ダニエル・クレイグ版ではシリアスに変身。そんなヒーローがもてはやされる現代に突如現れたオレ流バリバリのスノーは、その古風な姿勢が逆に新鮮に映る。ウルヴァリンやスネーク・プリズキン（『ニューヨーク 1997』）に引けを取らないアグの強さに注目せよ！

ジョン・マクレーン



自身の不運をボヤキながらも、なんだかんだで生き延びる不死身の刑事。悪党に弱みを見せず、逆に憎まれ口で挑発する姿勢はスノーに共通。

ジェイソン・ボーン



記憶喪失のCIA特殊工作員。スノーと同じ一匹狼ではあるが、その行動は一歩間違えば存在を消される危機的状況ゆえに、あくまで隠密。

ジェームズ・ボンド (ショーン・コネリー)



初代ボンド俳優ショーン・コネリーは歴代のボンド俳優の中でも野性味満点。常に余裕の表情を保っている点も、スノーに近いものがある。

最も礼儀知らずなヒーロー、スノーを解剖する！

BATTLE

戦闘

武器や兵器の扱いは超一流！

頭に銃を突きつけられても瞬時に反撃するほどの、類まれな反射神経の持ち主。扱える銃も、大型から小型まで何でもOK。何より驚くべきは強烈な生存本能。状況を的確に判断して命の危機を乗り切る姿が何とも頼もしい。



MISSION

任務

宇宙刑務所への単身潜入！

刑務所を占拠した囚人たちに、人質にとられた大統領令嬢救出の任務を引き受けることに。一方で、自身の無実を証明する仲間を探して刑務所内を奔走。一度やると決めたミッションを完遂するためなら一切、妥協しない。



CHARACTER

性格

口が減らないとはこのこと!?

拷問まがいの尋問を受けて、殴られ続けてもシラッと憎まれ口を叩き、窮地を窮地とも思わない強気な性格。目の前にいるのがお偉いサンでも大統領の娘でも遠慮ナシ。傍若無人という言葉は、まさにこの男のためにある。



FAVORITE

好物

タバコは絶対手放せない！

タバコを旨そうに吸うヘビースモーカー。ライターを友とし、レディの前でも遠慮なしにスパスパして、見咎められても当然、消したりはしない。アウトロー的な性質が、嫌煙時代に逆行する、こんな嗜好からも見て取れる。



SNOW スノー

機密漏えい事件を追ううちに裏に落ち、殺人の濡れ衣を着せられた元敏腕CIAエージェント。犯罪者のレッテルを貼られたにもかかわらず慌てず騒がず、それどころか超強気！

一筋縄ではいかない 個性派新ヒーローが登場！

凶悪犯500人に占拠された宇宙の刑務所から、大統領の愛娘を救出出す——そんな困難なミッションに挑む元CIA特殊工作員の活躍を描いたのが、ヒットメーカー、リュック・ベッソンの製作&脚本による『ロクアウト』だ。「アバター」の大ヒット以降、SFアクションは次々と作られているが、本作が他と異なるのは、ヒーローが一筋縄ではいかない強烈な個性派である点だ。

なにしろ、この主人公スノーは反骨心の塊のような男で、暴力に屈さず、権威や権力に頭を下げず、礼儀やマナーなど知ったこっちゃない。そんなキャラクターだから、救出ミッ

ジョンに就いてもオレ流を貫き、野性的な勘と卓越した身体能力を武器に突き進む。野獣のような囚人の群れが襲いかかろうとも決してひるまず、絶望的な危機に陥っても簡単には諦めない。自分だけを信じ、自分だけを頼る、そんな人間だからこそ持ちうる強さにアツくなる観客は決して少なくないだろう。

最近では「プロメテウス」の老けマイクでの怪演も記憶に新しい演技俳優ガイ・ピアースが、素顔に戻って稀代のタフガイヒーロー、スノーを熱演。価値観が多様化し、多彩なコミュニケーション・ツールによってそれを訴える手段が増え、正しいことが何なのか見えにくい現代だからこそ、スノーの気持ちイイまでのオレ流は貴重なのだ。必見！



STORY
2079年、重罪人を収容する宇宙の刑務所で暴動が発生。人質にとられた米大統領の娘を救うため、凄腕の元CIA工作員エージェント、スノーが単身、現地に乗り込んでいく！